

令和 7 年度 館邑会事業報告書

1. はじめに：法人理念の体現

令和 7 年度、当法人は「地域の方たちとワンチームになり、誰もが輝ける社会をつくる」という理念のもと、既存事業の充実と新たな福祉の形の模索に邁進いたしました。障害者総合支援法に基づき、利用者の多様なニーズに応えるとともに、地域に根ざした体制づくりを強化した 1 年となりました。

2. 事業運営の概況

事業所名	主な事業内容
陽光園	障害者サービス事業（規模縮小・移転検討を開始）
第二陽光園	障害者支援施設（女性棟の個室化検討）
てんしゃば	共同生活援助事業（定員増の需要と経営調査実施）
ほっと	相談支援事業（基幹相談支援センターの協力体制構築）
ふらっぐ	就労継続支援事業 B 型
GOODJOB	就労継続支援事業 B 型（作業場「からふる」の移転計画）
がじゅまる	共同生活援助事業

3. 令和 7 年度 重点項目の達成状況

① 安定した事業運営と経営基盤

- 財務状況：法人全体で約 3,400 万円の黒字を計上し、安定した経営基盤を維持しました。ただし、例年通り事業所間で収支のばらつきが見られるため、令和 8 年度以降の平準化が課題です。
- 職員の確保と育成：新卒採用が困難であったという現実直面し、戦略を転換。学生対象の就職説明会への積極参加を開始し、次代を担う人材確保への種まきを行いました。

② 新規プロジェクトの進捗

- 基幹相談支援センター：1 市 4 町との連携準備を計画通り進め、令和 8 年度の円滑なスタートを実現しました。相談支援センター「ほっと」との強固な連携体制を構築しています。
- ひろがる WA ラボ：当初計画にはありませんでしたが、陽光園の分割と地域のニーズに応える形で明和町に新拠点を設立。法人の機動力を示す結果となりました。
- 栄町新事業所設立準備：助成金の 2 次審査不採択という苦渋の決断を迫られましたが、「地域に開かれた事業所」というコンセプトを堅持。建物の縮小と設計見直しを行い、着実な事業継続を選択しました。

4. 施設整備および長期重点事項

○ 施設老朽化と再編

「陽光園」の老朽化対策として、利用者を新設の「ひろがる WA ラボ」や「栄町新事業所」へ段階的に移行する計画を策定しました。これにより、無理のない規模縮小と設備更新の検討を進めています。

○ 共同生活援助の検討

「てんしゃば」における定員増のニーズを確認しましたが、職員確保と経営バランスを考慮し、慎重に検討を継続しています。

○ ICT・BCPの推進

- ICT活用： 職員の記録負担軽減のため、AIを率先して活用する新型記録システムの導入検討を開始しました。
- BCP（事業継続計画）： 災害時を想定した職員安否確認訓練を実施し、緊急時の初動体制を強化しました。

5. 委員会活動・法人行事

○ 委員会組織の機能強化

研修、人権倫理、苦情解決、危機管理、広報の各委員会を整備。特にAI活用検討やBCP訓練において、委員会の枠組みが機能しました。

○ 法人行事のあり方見直し

- 秋まつり： 職員・利用者の負担を考慮し、全体開催を中止。代わりに各事業所単位でキッチンカーを招く小規模イベントを開催しました。これにより、利用者がゆったりと楽しめる「質の高い余暇」の提供を実現しました。
- 会議・監査の実施： 理事会7回、評議員会6回を適切に開催し、透明性の高い経営を行いました。



6. 今後の展望と課題

令和7年度は、計画の修正を余儀なくされる場面もありましたが、それを「ひろがるWAラボ」の開所準備や行事の形態変更といった柔軟な対応で補った1年でした。

令和8年度は、栄町新事業所の着工に向けた再整備、および基幹相談支援センターを核とした地域支援体制の更なる深化に注力してまいります。

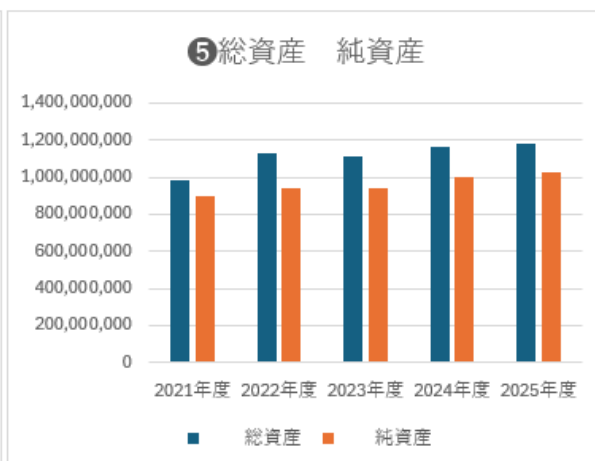
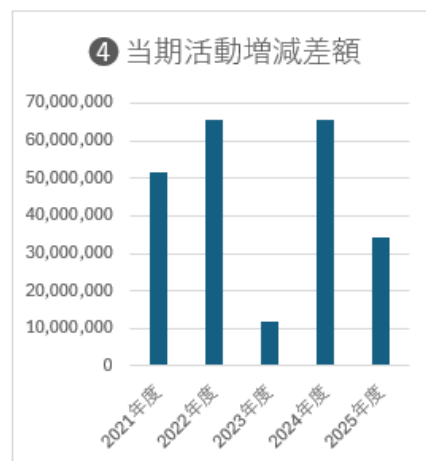
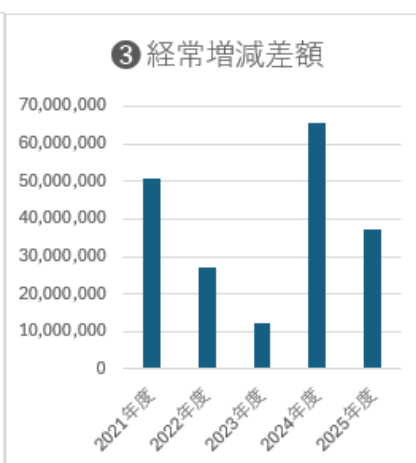
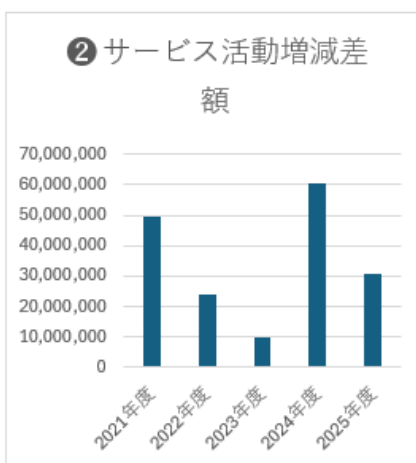
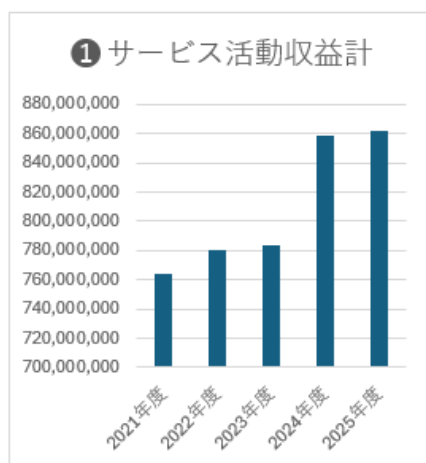


障害福祉サービス事業所
ひろがるW Aラボ



7. 財務ハイライト

項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
① サービス活動収益計	764,121,978	780,501,092	783,260,721	859,204,696	862,356,605
② サービス活動増減差額	49,245,413	23,840,975	9,986,788	60,375,914	30,620,793
③ 経常増減差額	50,809,910	26,972,248	12,180,980	65,680,216	37,348,653
④ 当期活動増減差額	51,414,907	65,663,730	11,780,198	65,680,215	34,321,058
総資産	985,176,523	1,130,117,737	1,111,977,382	1,159,354,335	1,176,734,097
⑤ 純資産	893,704,822	938,720,044	941,736,616	998,653,206	1,024,343,993



指標	計算式	単位	館邑会全体	他法人平均 ※
人件費率	$=(人件費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	69.30%	67.50%
経費率	$=(経費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	19.30%	25.00%
事業費	$=(事業費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	9.70%	14.10%
事務費	$=(事務費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	9.60%	10.90%
光熱水費率	$=(光熱水費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	2.50%	2.70%
減価償却費率	$=(減価償却費 \div サービス活動収益) \times 100$	%	2.90%	3.00%
償還費率	$=(借入金元金償還支出 \div サービス活動収益) \times 100$	%	0.40%	
従業者数	(常勤換算)	人	114.7	
従業者1人当たり事業活動収入	$=事業活動収入 \div 従業者数$	千円	7,578	6,849千円
従業者1人当たり人件費	$=人件費 \div 従業者数$	千円	5,207	4,395千円
労働生産性	$=付加価値額 \div 従業者数$	千円	5,620	4,620千円
労働分配率	$=(人件費 \div 付加価値額) \times 100$	%	92.60%	95.10%
流動比率	$=(流動資産 \div 流動負債) \times 100$	%	1646%	
事業活動増減差額比率	$=(当期活動増減差額 \div サービス活動収益) \times 100$	%	3.98%	1.55%

【2024 年度 全国平均値の主な変更点と分析】

1. 人件費と収益の増加

全国的に賃上げの影響で「1 人当たり人件費」が上昇していますが、それ以上に「1 人当たり収益」を確保できている法人が多く、全国平均の労働分配率はわずかに低下（改善）しています。

2. 経費率の上昇（光熱水費の影響）

WAMNET の調査報告でも、経営上の課題として「人件費以外の経費（特に電気・ガス代）」を挙げる法人が 58.8%に達しており全国平均の経費率は 25%台へ上昇しています。

3. 館邑会の立ち位置

収益性: 1 人当たり収入（7,578 千円）が全国平均（6,849 千円）を大きく上回っており、非常に生産性が高い状態です。

コスト管理: 経費率（19.3%）が全国平均（25.0%）より著しく低く、効率的な運営がなされていることが数値に表れています。

※3 他平均値は 2024 年度公表の社会福祉法人経営状況調査等（出典：WAMNET）に基づき、直近の動向を反映した推計値を含みます。

令和7年度 第二陽光園事業報告

1. 概要

第二陽光園は、障害者支援施設としての在り方が問われている現在にあっても、「利用者の健康と笑顔」を支援の指針とすることにより変わりが無いことを改めて認識し、利用者にとってぬくもりのある生活を提供していくべく日々の支援活動に当たってきました。

利用者一人一人の生活を尊重し、利用者家族とのコミュニケーションを重ね、地域住民、関係機関との連携を重ね、利用者、またそのご家族が安心して利用していただける施設の運営に努めてきました。

令和7年度は10月に1名の利用者が共同生活援助 がじゅまるへの「地域移行」を実現させ、地域で新たな生活を始めることができました。

令和8年4月で開所から30年を迎え、様々な設備が老朽化していく中、厨房設備の入れ替え（フライヤー、スチームコンベクション）を行いました。

令和7年12月2日 7年ぶりの群馬県監査指導課による運営指導がありましたが、大きな指摘事項なく、終わることが出来ました。

2. 施設入所支援・生活介護

第二陽光園利用者の地域移行、個室化もひと段落し、居住空間・共有空間の整備に力を入れ、限られたスペースを有効に使えるよう、また利用者にとって安らげる空間が提供できるよう工夫を凝らしました。

4月19日、保護者説明会を実施し、保護者の皆様に第二陽光園の事業説明、今後の障害福祉の方向性についてご説明させていただきました。その際、現場職員と保護者の皆さんの交流の機会を設け、親睦も図りました。

◇利用定員数

事業名	利用者数
生活介護(主に平日日中支援)	定員34名
施設入所支援(主に夜間・休日支援)	定員34名(男性15名・女性19名)

◇性別年齢構成(令和8年3月現在)

	～19	～29	～39	～49	～59	～69	70歳～	平均
男性	0	0	1	6	6	1	0	49.0歳
女性	0	0	0	4	5	3	5	60.7歳

◇障害支援区分(令和8年3月現在)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
男性	0	0	0	0	0	0	14	6
女性	0	0	0	0	0	2	15	5.88

◇援護市町(令和8年3月現在)

	邑楽町	館林市	千代田町	板倉町	明和町	大泉町	太田市	その他
男 性	1	6	0	2	2	2	1	0
女 性	2	5	1	3	3	1	1	1

※第二陽光園 入所利用者 31 名(令和7年3月現在)。

令和7年度 入所者1名(令和7年5月1日)。退所者2名(うち1名は法人内事業所への地域移行。1名は県立リハビリテーションセンターに移行。)

※参考(令和8年3月1日現在)

第二陽光園 入所待機者数60名(男性36名・女性24名。昨年比3名増)

県内旧知的障害入所施設待機者数 633名(男性455名、女性187名、昨年比6名増)

3. 短期入所・日中一時支援

地域生活支援拠点等事業の一環として、令和5年4月14日より男性利用者1名を受け入れ、以降継続して短期入所をご利用いただいています。

また、短期入所、日中一時支援については地域におけるニーズ、重要性は十分理解しながらも限定的な利用に抑えざるを得ない状況となっています。

◇年度別利用者数(人)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
利用延べ人数 日中一時(日帰り)	57	239	128
短期入所(宿泊)	364	466	469

4. 研修・訓練

- ・新任職員研修(10月・12月・2月)実施。
- ・感染症対策委員会 年4回(5月・7月・12月・2月)実施。
- ・感染症に係る研修(5月・7月)・訓練(9月・2月)実施。
- ・業務継続(自然災害)に係る研修(7月・12月)・訓練(11月・2月)実施。
- ・人権倫理委員会(虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会) 年3回以上実施。
- ・虐待防止に係る研修:9月実施。
- ・身体拘束適正化に関する研修:9月実施。
- ・地域連携推進協議会:7月実施

5. 主な行事

- ・余暇・外出……外食、買い物、散髪、ドライブ、キッチンカーを招いての食事会。
- ・定期健診(健康づくり財団)
- ・内科検診(真中千明嘱託医)
- ・歯科検診(あおぞら歯科)
- ・総合避難訓練(邑楽消防署 年1回)・通常避難訓練(年2回)

令和7年度 がじゅまる事業報告

1. 概要

共同生活援助がじゅまるは「ひとりひとりの福祉（幸せ）、当たり前の生活を支える」を基本理念とし、利用者それぞれが地域の一生活者としての権利が守られ、安心して、快適に、且つ楽しみをもって生活できるよう支援の提供を行っています。

居住の場が十分に足りているとはいいいがたい圏域の状況を踏まえ、ご家庭で地域生活を継続している利用者の一時預かり場、体験利用の場の充実を図るため、令和7年11月より短期入所事業の定員を2名に増員しました。

令和7年度は残念ながら2名の入居者様がお亡くなりになりましたが、ご家族・代理人、医療機関、相談支援事業所と連携を図り、人生の最期をしっかりと支えることが出来ました。

9月に緊急的な受け入れとして1名、10月に入所施設からの地域移行の形で1名の新たな利用者を迎え入れ、がじゅまるを生活基盤とした新たな生活を支えています。

2. 共同生活援助（令和8年3月現在）

1）現状（年齢構成、障害支援区分）

	年齢構成（平均 53.2 歳）						支援区分（平均 5.86 ）				
	利用者数	20 代	30 代	40 代	50 代	60～	2	3	4	5	6
A 棟	7 名			2 名	5 名						7 名
B 棟	8 名		1 名	1 名	3 名	3 名				2 名	6 名

2）日中活動場所

	陽光園	B 型	カレンフィールド	虹をつかもう	がじゅまる
A 棟	3 名		1 名（週 2 回）		3 名
B 棟	6 名（うち 1 名週 3 回）	1 名	1 名	1 名（週 2 回）	

3. 短期入所

	令和 6 年度	令和 7 年度
利用者延べ人数 短期入所	3 1	7 3

4. 研修・訓練

- ・感染症対策委員会 年 4 回（5 月・8 月・11 月・2 月）開催。
- ・感染症にかかる研修（5 月・11 月）・訓練（8 月・2 月）実施。
- ・業務継続（自然災害）に係る研修（6 月）・訓練（1 月）実施。
- ・人権倫理委員会 年 3 回実施。
- ・虐待防止 / 身体拘束適正化に関する研修（6 月）実施。
- ・地域連携推進会議 7 月 8 日実施

令和7年度 てんしゃば事業報告

1. 概要

てんしゃばは、平成16年の事業開始以来、22年が経過いたしました。

令和6年度より、法人内の日中活動系事業所職員が「てんしゃば」の勤務を兼務する支援体制（通称「一体化運営」）を整備し、事業を推進してまいりました。今年度は常勤職員3名を配置し、支援の安定化と質の向上に努めてまいりました。

一方で、利用者の重度化・高齢化の進行に加え、個々のニーズが多様化する中、現行の環境のままで継続的な支援を行っていくことの難しさを、あらためて認識する一年となりました。そのような状況の中においても、見学の機会を積極的に設けるとともに、本利用を見据えた体験利用を進め、利用者の受入れに向けた取り組みを継続してまいりました。

また、令和8年1月には、令和に入ってから初めて群馬県監査指導課による運営指導を受けました。運営指導を通じて、個別支援計画の作成に係る一連の手順や記録のあり方についてあらためて確認し、適正な事業運営の重要性を再認識する機会となりました。

【事業内容】

- ① 日常生活動作や相談等における支援、健康管理、金銭管理
- ② 定期及び緊急の通院や検査、入院時等の付き添い支援
- ③ 感染症対策における対応
- ④ 休日余暇支援、外部サービス移動支援の推進
- ⑤ 消防法に則った防火設備の整備と定期的な点検
- ⑥ 地域の清掃活動やイベント等への参加

2. 利用者状況（令和8年3月現在）

年齢構成（平均 49.5 歳） 男性 49.8 歳 女性 53.5 歳							支援区分（平均 4.9 ）			
		20 代	30 代	40 代	50 代	60 代～	3	4	5	6
そら	男性 4 名		1 名	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名		1 名
あすか A	女性 3 名			1 名	2 名					3 名
あすか B	女性 5 名	1 名	1 名		1 名	2 名		1 名	2 名	2 名
あすか C	女性 5 名		2 名		2 名	1 名		3 名	1 名	1 名
計	17 名	1 名	4 名	2 名	6 名	4 名	2 名	5 名	3 名	7 名

3. 日中活動場所（令和8年3月現在）

ホーム	陽光園	ふらっぐ	GOODJOB	他事業所	一般就労
そら	1名		1名	2名	
あすかA	2名		1名		
あすかB	2名		3名		
あすかC			3名	2名	
計	5名		8名	4名	

＊他事業所内訳：彩光園・梨花（就労B）、エムズウェル（就労A）、館林地域活動支援センター

4. 利用率

ホーム	ホーム平均利用率%（ホームごとの利用率幅）	
	令和7年度	令和6年度
そら	92.8（91.7～93.5）%	80.4（67.5～93.5）%
あすかA	53.6（51.0～56.1）%	67.8（51.6～74.8）%
あすかB	91.6（85.2～94.7）%	84.6（52.9～95.5）%
あすかC	93.1（80.0～98.7）%	91.6（86.5～98.7）%
事業所全体	82.8%	81.4%

令和7年度 ほっと事業報告

1. 概要

相談支援センターほっとは、館林市、板倉町、明和町、千代田町、邑楽町から相談支援事業の委託を受け、地域で生活をしていく上での様々な問題について、障がいのある人やその家族等からの相談、必要な情報の提供、障害福祉サービスの利用支援、権利擁護のために必要な援助の他、サービス等利用計画の作成を行ってきました。相談員は17名（事務員1名）を配置し、相談者に対してきめ細やかな対応を心掛け相談支援にあたりました。

また、令和8年1月に館林市指導監査による運営指導があり適正運営を確認する機会となりました。

【事業内容】

- (1) 基本相談支援 (2) 地域移行支援 (3) 地域定着支援 (4) 特定相談支援
(5) 障害児相談支援 (6) 虐待防止センター (7) 他事業

2. 令和7年度 相談支援事業の活動状況（ ）内は前年

	館林市	板倉町	明和町	千代田町	邑楽町	他市町	合計
相談実人数	773 (706)	110 (95)	167 (125)	114 (96)	94 (80)	0 (0)	1,258 (1102)
件数（関わった回数）	11,463 (7515)	1,278 (764)	3,022 (1366)	2,313 (1311)	1,566 (952)	0 (0)	19,642 (11908)
新規サービス等 利用計画件数	95 (73)	11 (16)	20 (20)	11 (12)	6 (6)	1 (2)	144 (129)

3. 相談支援利用者の状況

障害種別では、以下の傾向が見られた。

- ・知的障害の相談が最も多い（例：館林市233名、明和町49名など）
- ・精神障害の相談も多く、地域全体で増加傾向（館林市151名など）
- ・発達障害の相談は障害児で特に多い（館林市児童272名など）
- ・高次脳機能障害・難病は少数だが継続的に発生

4. 相談支援の実施方法（相談方法別の件数は以下の特徴がある）。

全体的な傾向としては、「電話相談」が最も多い。（館林市：3,327件・明和町：724件・千代田町：614件）また「訪問支援」も一定数実施（館林市：590件・明和町：86件）した。

「来所相談」は比較的少なめであった。

＜総件数＞

館林市：6,930件・板倉町：1,335件・明和町：1,629件・千代田町：1,254件・邑楽町：778件

5. 支援内容の分類別件数

全体的な傾向として、最も多い支援は「福祉サービス利用に関する支援」となっている。

（館林市：5,906件・明和町：1,344件・千代田町：1,191件）

内容としては、サービス利用調整の需要が非常に高い。

次に多い支援は、「不安解消・情緒安定に関する支援」（館林市：1,857件・明和町：559件）、「保育・教育に関する支援」（特に児童の多い地域で顕著）、「家族関係・人間関係の支援」、「就労支援」（館林市 387 件など）と続いている。

6. 総括

令和7年度は、障害者・障害児の相談件数が全体として高い水準で推移し、特に以下の点が特徴的であった。

1. 電話相談の増加（日常的な困りごとや不安の相談が多く、迅速な対応が求められた。）
2. 福祉サービス利用支援の需要が非常に高い（制度の複雑化やサービス選択肢の増加に伴い、利用調整の支援が中心となった。）
3. 発達障害児の相談が突出（特に館林市で多く、教育・療育支援の体制強化が課題。）
4. 地域差の存在（相談件数が比較的少ない地域はあるが、個別支援の必要性は高い。）

7. 1市4町の虐待ケース報告（相談）状況 19件

種別	内容	件数
対応	電話	10
	来所	
	その他	2
種別	養護者	8
	従事者	11
	使用者	
虐待行為	身体的	4
	性的	1
	心理的	14
	放置	
	経済的	
	その他	
相談者名前	有	13
	匿名	6

種別	内容	件数
住所地	館林	12
	板倉	3
	明和	
	千代田	
	邑楽	
	その他	4
関係者	本人	6
	家族親戚	2
	住民知人	3
	警察	
	行政職員	1
	従事者	5
	その他	2
事後連絡	承諾	10
	拒否	7
	その他	2
情報源	目撃	3
	あざ等を見た	3
	本人	7
	本人から聞いた	4
	他者から聞いた	2

令和 7 年度 陽光園事業報告

1. 概要

陽光園では、利用者の重度化・高齢化が進む中で、一人ひとりの希望や状態に応じた活動空間の提供に努め、日中活動の「豊かさ」や「楽しさ」を重視した支援を行いました。これらの取り組みを継続しつつ、令和 7 年度は新規事業所の展開を見据えた組織づくりと職員育成を重点的に進めました。職員が新たな事業所の役割を理解し主体的に関われるよう、研修や意識づけに取り組みました。

- ① 高齢利用者・重度利用者の特性に配慮した活動
- ② 事故防止対策の推進
- ③ 虐待防止対策・身体拘束適正化推進への取り組み
- ④ 事業継続計画の作成
- ⑤ 感染症予防対策
- ⑥ 職員の支援力の向上（WEB 研修・外部講師による継続的な研修等を実施）
- ⑦ 新規事業所開設に向けた職員研修の実施
- ⑧ 生産性のある生活介護事業所のイメージづくり
- ⑨ 職員一人ひとりの役割の明確化

2. 活動状況

A 棟（詩・咲・楽）と B 棟（陸・望・暖）の 2 棟体制で、各グループの障がい特性に応じた活動を行いました。集団活動を取り入れつつ個別性を重視し、一人ひとりが安心して参加できる環境づくりに努めました。また、活動状況に応じて個別外出の機会を設け、楽しみを持ちながら、メリハリのある日中活動を提供しました。アート活動にも力を入れ、創作した作品は、館林邑楽地区障害福祉サービス事業所合同作品展や知的障害者福祉協会ゆうあいフェスティバルに出展し、板倉町長賞や銀賞を受賞するなど高い評価を得ました。これらの作品展は、利用者の創造性を発揮する貴重な機会となりました。作業活動では、請負作業に取り組み、年間作業収入は 358,600 円となりました。この収入に基づき、利用者の皆さまへは月額平均 1,380 円の工賃を支給しました。（令和 6 年度 1,412 円）行事ではキッチンカーの来園や特別弁当の提供などを実施し、楽しい時間を過ごせるよう工夫しました。これらの取り組みを通じて、利用者一人ひとりが充実した日中活動を送れるよう支援しました。

3. 利用者構成（令和8年3月末現在）（男性35名・女性24名）

定員；55名	登録者；59名	R7年度1日平均利用者数；50.2名（R6年度51.0名）
--------	---------	-------------------------------

◇性別年齢構成（平均 33.5歳）

	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均（歳）
男 性	1	7	6	8	9	3	44.24
女 性	0	4	7	3	8	3	44.22

◇支援区分

区 分	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平 均
人 数					1	6	48	5.85

◇市町別人数

館林市	邑楽町	千代田町	板倉町	明和町	大泉町	佐野市
32	7	6	3	5	5	1

令和7年度 ふらっぐ 事業報告

1. 概要

就労継続支援事業（B型）の役割である「工賃の向上」と「就労支援」を十分に検討し「働きと暮らし」の両側面を支えていく活動が続ける中で事業を推進してまいりました。

- ① 個別支援とその実践（それぞれに合った作業スケジュールの調整）
- ② 作業環境の整備（それぞれにあった作業環境の調整）
- ③ 工賃向上への取り組み（請負作業の拡充）
- ④ 自主生産の販売強化（SNS での広報強化、地産地消強化）

定員 20 名 登録者 25 名（男16名 女9名） 令和7年3月31日現在

令和7年度 平均利用率 83%（月平均 20.9 名）

施設外就労の取り組み者 7 名

【月額平均工賃支給額】（年間工賃支給総額は、7,734,351 円）

令和7年度 30,907 円（延べ利用者数 5,276 名／年）

令和6年度 30,113 円（

令和5年度 31,465 円

令和4年度 25,428 円

令和7年度における新規利用契約者（利用開始）・・・ 3 名（他事業所より移動）

令和7年度における事業利用終了者・・・・・・・・・・ 3 名（2 名他事業所へ移動、1 名死亡）

令和7年度における就労者・・・・・・・・・・・・・・・・ 0 名

2. 作業別収入額

作業収入	令和5年度	令和6年度	令和7年度
パン製造販売	17,677,822 円	17,290,856 円	16,257,977 円
(株)ビクトリー			1,644,441 円
樽勘駐輪場清掃	328,344 円	366,399 円	408,547 円
(有)井野口解体			353,747 円
収入合計	1,8006,166 円	17,657,255 円	18,664,712 円

令和7年度 GOOD JOB 事業報告

1. 概要

物価、水光熱費、人件費高騰の中、委託作業において委託費価格の交渉を行いいくつかの委託作業において価格を上げて頂くことができましたが、作業量減少もあり収入増にはつながりませんでした。そんな中で自主生産品のクッキーを館林邑楽地域産の100年小麦100%に切り替え、合同会社紬組とコラボした紬クッキーが里沼ブランドの認定を頂けることになりました。今後地域の魅力発信のために取り組んでいきます。

2. 就労継続支援事業（B型）

定員20名 登録者38名（男20名 女18名） 令和8年3月31日現在

施設外就労の取り組み者 28名

令和7年度定員における1日平均 32.5名

令和7年度における新規利用者・1名（高等支援卒業1名）

事業利用終了者・・・2名（他事業所2名）

就労者・・・1名（ボプラ会すずかけ荘清掃作業員）

【月額平均工賃支給額】（利用者工賃総支給額 15,116,009円）

令和7年度 39,204円

令和6年度 37,166円（1年間延べ438名支給一月平均約37名支給）

令和5年度 30,445円（1年間延べ446名支給一月平均約37名支給）

【作業収入】

作業収入	作業種	令和6年度	令和7年度
近藤沼駐車場	清掃	330,000円	288,000円
障がい者支援センター	清掃	133,200円	133,200円
成島町グランドゴルフ場	除草	514,800円	514,800円
ダノン工場内（ATR）	清掃	11,375,100円	11,578,000円
ダノンジャパン	分別・清掃	6,600,000円	7,128,000円
秀和	内職	1,417,559円	820,844円
ひかり寿司	洗浄	272,400円	319,600円
つつじが岡清掃	清掃	1,122,000円	1,182,000円
エーアグレス	分別	917,323円	1,243,508円
菓子製造販売	自主生産	5,183,352円	4,627,162円
弁当清掃販売	自主生産	6,085,610円	0円
収入合計		33,951,344円	27,835,114円